

1 『尿沈渣の精度管理』～その3～

2  
3 ○安藤 正, 菅野良則, 多田隆宏, 内海 寛, 茂木雅史,  
4 中野端秋 (東邦大学医療センター佐倉病院 MCM 検査  
5 室) 渡邊 仁 (同臨床検査部)

6  
7 【効果】フォトサーベイの実施により、理解できてなかつ  
8 た所見、苦手な成分が個人別に把握できた。回数を  
9 重ねる毎に正解率が上昇し理解度が高まって来た事  
10 が解る。又、他のスタッフの解答、正解率も公開してい  
11 るので、自分と比較する事によって各自のスキルアップ  
12 にも繋がっていると思う。【考察及びまとめ】当院検  
13 査部では夜間・休日にも平日と同じ項目の検査を実  
14 施している。一般検査においては、件数は少ないが  
15 尿沈渣、髄液検査、穿刺液検査を実施している。第  
16 39 回千臨技学会において、当院検査部スタッフへ実施し  
17 た一般検査のアンケート調査について報告した。それによ  
18 ると、「一般検査は難しい」「勉強会を開催して教え  
19 て欲しい」等の意見が多かった。普段見慣れない尿  
20 沈渣や髄液検査を夜間・休日に実施するのはとても  
21 不安だと思し、正確な結果を返しているのか疑問  
22 に思っていた。そこで、スタッフの観察力、理解度の確  
23 認、見解の統一化を目的としスライドサーベイを実施した。  
24 本来ならば、ディスカッション顕微鏡を用いて、一緒に標本  
25 を観察しながら確認するのが理想であるが、現状は  
26 写真を用いてサーベイを実施している。過去の結果から、  
27 スタッフの理解度が高まって来た事が解り、このサーベイ  
28 が最良とは言えないが、精度管理の方法の一つとし  
29 て有効であると考え。今後は、尿沈渣以外に髄液、  
30 穿刺液についてもフォトサーベイを実施して行きたいと考  
31 えている。また、検鏡プレート等に検体を封入し、各自  
32 が鏡検できる標本による方法なども検討している。

33 【結語】夜間・休日帯にルチン帯と同じ項目を検査す  
34 る事は、我々技師にとって肉体的、精神的に負担で  
35 はあるが、医師、患者様にとっては大いなる貢献だ  
36 と思う。検査結果の信頼性を高めて行く上で、担当  
37 者以外の技師でも、担当者と同じ結果が返せる様に、  
38 普段からの教育、精度管理が必要かつ重要と考える。

39 連絡先 043-463-0361